

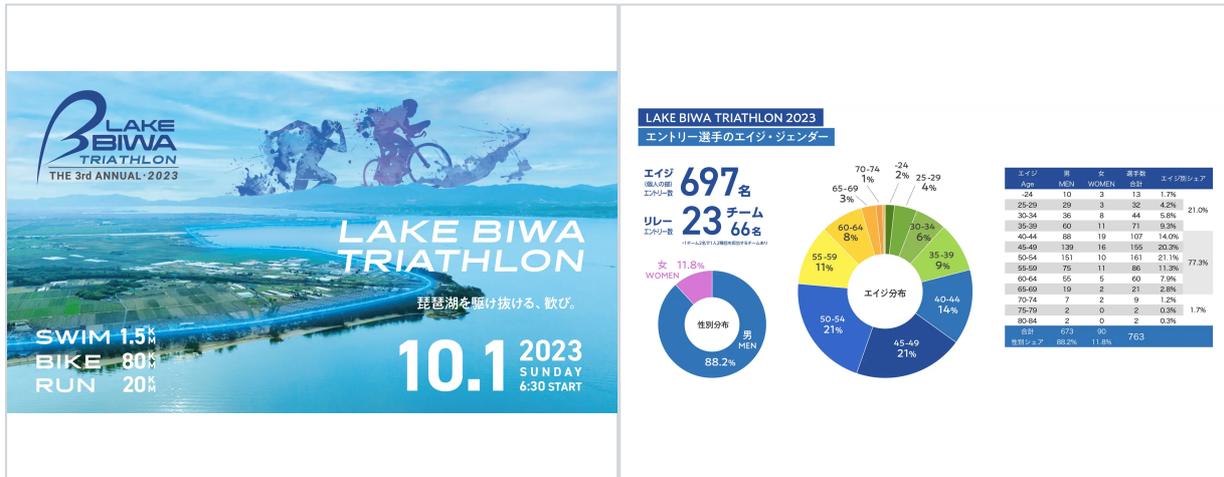
サステナブルな取組で地域を盛り上げるトライアスロン大会

滋賀県守山市 × CEEPO International LTD.

(登録団体：滋賀県守山市)

取組概要

滋賀県守山市でのトライアスロン大会の開催にあたり、民間企業や大学などが持つサービスや技術、若い力を活用した社会課題を解決する取組を行った。ここではすべての参加者や関係者が、大会の企画段階から実施に至るまであらゆる場面でサステナブルな取組に関わるきっかけを作った。具体的には①CO2削減に寄与する大型荷物の輸送、②紙資源の再利用、③障がい者や子どもでも参加可能なイベントの実施、を重点的に行った。



今大会トライアスロン大会 メインバナー

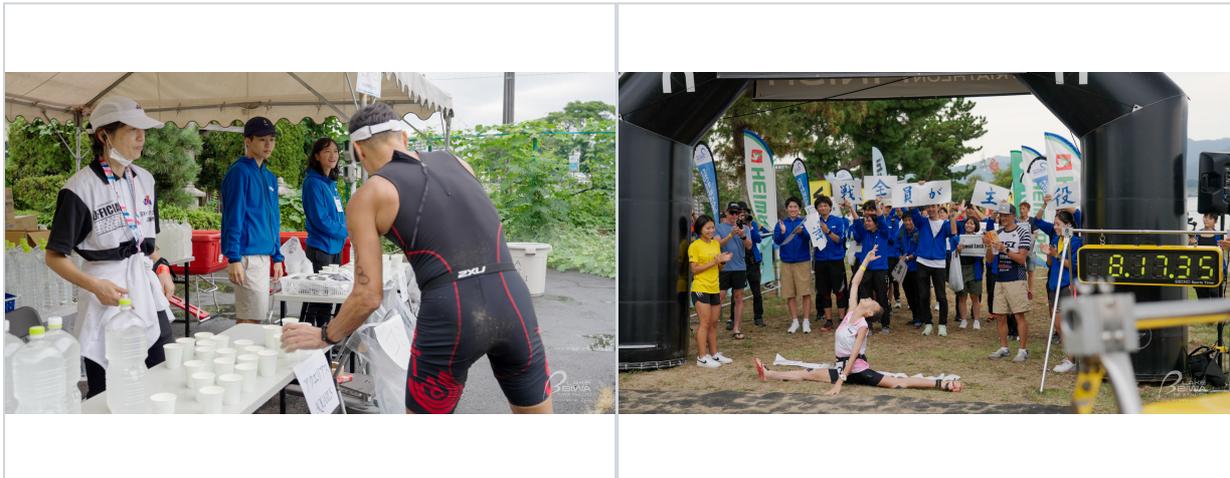
今大会大会参加者の年齢層、ジェンダー比率

基本情報

代表地方公共団体等	滋賀県守山市
代表民間団体等	CEEPO International LTD.
他の連携団体等	佐川急便(株)、日本貨物鉄道(株)、(株)ユーグレナ、(株)セブンイレブン・ジャパン、日本コカ・コーラ(株)、丸紅パーパーリサイクル(株)、(株)ピエクレックス、トヨタモビリティ滋賀(株)、(株)たねや、びわこ成蹊スポーツ大学 他
カテゴリ	ゼロカーボン

	<p>廃棄物（ゴミ）対策 地域振興・交流</p>
事業費	<p>296万円 令和5年7月10日～令和5年12月28日まで *大会実施日は令和5年10月1日</p>
目指すSDGsゴール	   
事業化までの期間	<p>今大会：令和4年7月～令和5年7月（前回大会：令和3年7月～令和4年7月）</p>

取組内容



サステナブルパートナーによる運営

闘病中の参加者、今大会最後のフィニッシュ

この取組で解決した課題	<p>（１）国内外から参加者が集まるトライアスロン大会を開催するにあたり、自転車などの大型荷物の輸送方法として、自家用車を利用する現状がある。そのため、多くの方が参加するほどCO₂排出量が増えてしまう課題がある。</p> <p>（２）スポーツ大会では、大量の紙資源が使用され、廃棄されることが当たり前になっている。例えば、参加者の水分補給に使用する紙コップ、郵送などに必要となるダンボールは、分別や再利用を考慮していないことが多く、新たな活用の仕組みが求められている。</p> <p>（３）トライアスロンは競技面で身体への負荷が非常に高く、参加へのハードルが高いイメージがある。地域に根付き、開かれたスポーツ大会とするために、持病や障がいをもつ方、子ども、およびその家族なども参加できる機会を提供する必要がある。</p>
解決に向けた手法	<p>（１）CO₂排出量の少ない鉄道やバイオ燃料トラックの活用により、事業者及び海外からの参加者の荷物の輸送を実施した。</p>

	<p>(2) 防水加工が片面だけの再利用しやすい紙コップを参加者の水分補給用に採用した。併せて学生ボランティアによる徹底した分別により、製紙原料としてリサイクルを行った。他にも、地元企業が使用したダンボールを回収・再生し、参加者への送付用資材として活用し、参加者や大会関係者の資源循環に対する意識の向上に寄与した。</p> <p>(3) 他のトライアスロン大会では参加を断られていた闘病中の末期がん患者や義足の方の参加を認めた。そのため、事前にサポート役を確認し、メディカルスタッフの配置を強化した。一般的なルールに縛られない柔軟に大会ルールを設定し、誰もが参加が可能な仕組みを作った。さらには、大会関連イベントとしてキッズアクアスロンを実施し、子どもがスポーツに触れ合う機会の提供を行った。</p>
--	--

取組詳細

<p>事業推進上の各団体の役割分担</p>	<p>滋賀県守山市 地元企業や関係企業を対象に「サステナブルパートナー」としての支援呼びかけ、および大会に向けた具体的な課題解決の調整・実施を行った。</p> <p>LAKE BIWA TRIATHLON 実行委員会 ダイバーシティ&インクルージョンの観点から、配慮が必要な参加者の方々に対応可能なローカルルールの策定、および安全・安心な大会計画の構想、運営を行った。</p>
<p>地域関係者との連携方法</p>	<p>① 鉄道やバイオ燃料トラックを活用し、イベント資機材および参加者の自転車を輸送。 ② 再生利用したダンボールを送付用資材として使用。 ③ 実証実験として大会で消費する紙コップを古紙回収し、製紙原料としてリサイクル。 ③ 「ボトル to ボトル」でリサイクルするペットボトル回収機を設置。 ④ クルマから電気を取り出し会場電源として給電。 ⑤ 地域の特産物や地産地消の食材の活用による食品ロスの低減。</p>
<p>資金調達方法</p>	<p>内閣府地方創生推進交付金を活用した委託事業</p>
<p>資金調達方法の補足</p>	<p>守山市令和5年度当初予算：地域振興事業費 委託費：296万円 ※事業に係る取材や映像作成、資料作成費含む</p>
<p>事業推進上の課題・工夫</p>	<p>一般的なスポーツ大会への企業の関わりは、金銭的な協賛にとどまる場合が多い。今大会では守山市がハブになり、サステナブルパートナーとして連携した企業や大学などと、大会運営に関連する社会課題について丁寧に議論する場を作ってきた。その結果、企業同士がより強い関係を構築し、新たなアイデアを次々と生み出すことができた。併せて、サステナブルパートナ</p>

一の活動を「見える化」することで、持続可能な社会への行動変容を参加者へ促す工夫をした。

(例：ペットボトルや紙コップの分別)

また、大会後にはサステナブルパートナーと振り返り会議を実施し、参加者、関係者、協力企業などに向けて、アンケートの結果を開示した。どのような技術やサポートが足りなかったか、今後どのようなサービスを提供できるかなど、次回大会に向けた検討を行う機会を創出した。

(例：ボランティアとの連携、デジタル活用、環境を意識した移動・交通対策)

担当者のコメント

本大会は、令和2年に第1回を開催し、毎年その規模を拡大してきた。大阪・関西万博が開催される令和7年には、1000人規模の大会を開催する目標を掲げている。このようなスポーツ大会は、ポジティブなイメージがある反面、交通渋滞に伴うCO2排出や資源ゴミの大量発生といった環境問題、特定の層に偏った参加者構成など、ネガティブなイメージもあると認識している。

今年で3年目を迎え、これらの課題に対処するため、サステナビリティとダイバーシティ&インクルージョンを重視した大会運営に注力してきた。このような新しい取組は、良い取組にしたいと関係者がコンテンツを詰め込み過ぎるがゆえ、調整が難しくなる。しかし、本大会では新しい取組を段階的に導入し、参加者や関係者の意識や行動に変化を促すことで、継続的な改善と課題解決に取り組んでいる。

このような取組は、他自治体にとどまらずに海外にも優良事例として発信していきたいと考えている。これらの努力を通じ、将来的に滋賀県守山市、ひいては日本が世界に誇れる大規模なトライアスロン大会を実現することを目指している。



担当者（左）・田中実行委員長（右）

問い合わせ先

団体名称	滋賀県守山市
部局名	都市経済部商工観光課

氏名	杉本 悠太
電話番号	0775821131
eメールアドレス	shokolanko@city.moriyama.lg.jp

優良事例応募項目

応募にあたっての記載事項	<p>■地方創生SDGsの視点 守山市では、平成27年地方創生総合戦略第1期より、自転車、琵琶湖岸周辺の体験コンテンツを軸に観光振興を継続して進めている。その中では、単発的な物産や情報発信でなく、地域の観光への付加価値づくり、持続可能な観光振興による地域の仕事づくりが目標として挙げられている。しかし、行政主導での直接事業やイベントを展開するには、持続可能という点で限界がある。</p> <p>また、地方における地域活性化の事業やイベントにおいては、ゴミ問題など環境負荷がかかることへの課題がある。その対策として、イベントの開催や参加、参画したことが自然と「楽しく、正しく」サステナブルな取組や、地域の活性化につながる必要がある。また実現に至るには、SDGsの重要な視点である、経済と環境、社会との調和が重要であり、官民での積極的に連携が必要である。そこで、国内外から多様な世代の人が集う、自転車、琵琶湖を体験する、トライアスロン大会を開催した。LAKE BIWA TRIATHLON 実行委員会と連携を図る中で、金銭的な協賛だけでなく、企業が持つ社会課題解決に向けた技術やサービスで協力するサステナブルパートナーが年々増えてきた。</p> <p>■ステークホルダーとの連携 ・大手企業、スタートアップ、地元企業、大学など、多様なステークホルダーと連携してきた。 ・滋賀県内の参加者だけでなく、滋賀県からの観客、協力企業も増加傾向にあることで、大会認知度向上や経済的波及効果が見られる取組となっている。 ・サステナブルパートナーとの共同モデルは、それぞれの強みを活かし、大会運営の持続化に貢献している。</p> <p>■モデル性・波及性 長距離輸送を伴うイベントに係る鉄道やバイオ燃料の活用や紙やペットボトルなどの資源のリサイクルについては、全国のほとんどの自治体で活用できる取組であり、モデル事業となり得る。</p>
--------------	--